

まんだら

—お地蔵さんからのご便り—

第4号

真言宗豊山派 摩尼山吉祥院

写真：吉祥院境内から望む筑波山

まんだら

—お地蔵さんからのお便り—

目次

- 02 ご挨拶
- 03 住職タイ訪問の軌跡
- 09 写経の勧め
- 11 仏教を知ろう 仏さまを知ろう！
- 14 菩提寺を知ろう 吉祥院の仏さま
- 15 写真に写そう！吉祥院の夜桜
- 17 吉祥院が茨城新聞に掲載されました
- 19 編集後記 お坊さんのつぶやき

本冊子は、吉祥院のホームページやブログに掲載している情報を編集・追記して作成しています。

下のURLもしくはQRコードよりアクセスください。

ホームページは
こちらから
アクセスできます



<https://www.kichijoin.com/>

ブログは
こちらから
アクセスできます



<https://ameblo.jp/kichijoin/>

表紙写真についてのご紹介

吉祥院霊園からは筑波山が眺められます。桜の花が咲くころは、右にソメイヨシノ、左に枝垂桜、そして中央に筑波山を見ることができます。かすかに冬の空気も残るこの時期は、空気が澄んでおり太陽の光が輝いています。





茨城県僧侶×タイ僧侶 交流の軌跡

吉祥院住職は、布教活動の一環としてタイやスリランカや台湾を訪れ
仏教交流を行っています。なかでもタイとは、高萩市大高寺住職が発起
人、吉祥院住職が幹事長となって、茨城県布教師会のメンバーと共に
交流を深めてきました。交流の象徴として高萩市大高寺の奥の院があり、
また、交流実績が評価され2018年世界平和会議に招待もされていま
す。今回は、そんなタイ国との交流を抜粋してご紹介します。

まずはじめに・・・

タイってどんな国？

正式名はタイ王国。日本の1.4倍の国土を持ち、およそ7000万人が暮らして
います。言語はタイ語。東南アジアでは唯一植民地支配を受けておらず、長い
王朝の歴史を持っています。インドシナ半島の中央に位置することから東西交
易の拠点であったため、インド(仏教、王制、官僚制度、文学…等)や中国(陶
磁器、絹布、食文化…等)からの影響を受けつつ独自の文化が育まれました。
国民の9割以上が仏教徒で、男子は一生に一度は出家して修行を積み、出家
が許されない女性などの在家者は僧侶が必要とする袈裟や食料などを納めたり
寺院修復を行ったり「徳
を積む行為」をします。街
中で1日に2度にわたり国
歌が放送され、王室への
忠誠を誓います。



吉祥院住職が行ってきた活動をご紹介します

交流の軌跡

■ きっかけは県布教師会記念事業

2009年、真言宗豊山派茨城県布教師会結成50周年記念事業の一環で、タイのカンチャナブリ慰霊塔の前で戦没者慰霊法要が行われました。法要は、ワットサケット寺のチャオブラクン ソムデット プラブッターシャーン師(タイ国副僧王)のご協力のもと、日本とタイの僧侶合同で行われ、地元の方々が参列しました。これにより、茨城県布教師会とタイの僧侶やワットサケット寺との交流が始まります。



↑ 日タイ合同慰霊法要
(カンチャナブリ慰霊塔前)



↑ 法要を進行する住職



↑ ワットサケット寺での法要

※カンチャナブリ慰霊塔…

第二次世界大戦中に日本軍がタイとミャンマーを結ぶ鉄道を建設、その工事に従事しマラリヤや赤痢・コレラ等の感染症で亡くなった連合軍の捕虜および労働者のために1944年日本軍によって建立された慰霊塔。



↑ カンチャナブリ慰霊塔
(タイ日本人会HPより引用)

※ワットサケット寺…

アユタヤ王朝(1351年～1767年)から存在する古い寺院。ラーマ1世の散髪地として歴史的に有名であるが、近年はバンコクが一望できる観光地としても知られる。黄金の丘「プーカオ・トーン」、黄金の仏塔(チェディ)が有名。



↑ ワットサケット寺院

■ その後もタイや日本で合同追悼法要を行い交流を深めます

2009年を皮切りに、数度にわたりタイを訪問し海外戦没者追悼法要を行ってきました。そして、その都度タイの僧侶との交流を深めていきます。



↑ カンチャナブリ慰霊塔前にて
(2012年)



↑ タイ国副僧王より
記念品を授かる住職(2014年)



↑ ワットサケット寺の法要
(2014年)

■ タイ国副僧王の国葬に参列 追悼法要を実施

幾度も交流を重ねてきたワットサケット寺の住職チャオプラクン ソムデット プラブッターシャン師が2013年に84歳で遷化されました。プラブッターシャン師はタイ国副僧王であるため国葬で見送られることになり、遷化後毎日ワットサケット寺院にて通夜が執り行われました。そして、2014年3月8日に最後の通夜、3月9日に国葬が行われ、そこに日本国を代表して茨城県真言宗豊山派の僧侶14名が参列しました。通夜では、タイの僧侶による読経ののち各国僧侶による通夜の経が唱えられ、日本は最初に読経しました。国葬には全世界から7万人の僧侶が参列したそうです。



↑ 火葬場までの葬列



↑ 葬列の車に乗る住職
(隣は韓国の僧侶)



↑ 葬列に手を振る国民

え
た
通
夜
の
経
を
唱
→
え
た
住
職
た
ち



の
7
万
人
の
僧
侶
→
全
世
界
か
ら



■プミポン国王追悼、ソムデットプラマハームニウオン仏法王謁見

タイ国民に深く敬愛されたプミポン国王が2016年10月13日に崩御され、その1年後の2017年10月25日～29日の5日間にかけて国葬が執り行われました。火葬の儀のため王宮広場に造営された施設「プラ・メルマーツ」周辺にはタイ国内外より約20万人が詰めかけたほか、国内に存在する約900の主要寺院においても一般参列による献花が行われ、世界中から訪れた1700万人もの人々がプミポン国王を追悼しました。当山住職含む一行は、2017年1月にタイへ渡り通夜に参加し、国王の棺の前で読経しました。（その様子はタイの国営放送に映されました。）また、2018年3月にはプミポン国王の遺骨が安置されているワット・ラーチャボピット寺にて追悼法要を行いました。



↑ 国王の棺が安置される
王室寺院前にて
(2017年)



↑ 国王の遺骨が安置する
ワット・ラーチャボピット寺
堂内にて読経後 (2018年)



↑ ワット・ラーチャボピット
寺前にて
(2018年)

さらに、ワットサケット寺前住職プラブッターシャン師の後を引き継ぎ新しく仏法王になられたソムデットプラマハームニウオン師に謁見し、「日本仏教の発展、そして日本仏教が未来まで続くための一助となってほしい。その願いのために私は祈る」と経を唱えてもらいました。

→
新
仏
法
王
と
共
に



→
ワ
ッ
ト
サ
ケ
ッ
ト
寺
前
に
て
集
合
写
真



交流実績の評価

ご縁がご縁を呼び、
国際会議に出席しました

■国際平和会議へ招待され、日本代表として参加しました

これまでのタイとの交流が縁となり、2018年6月にスウェーデンのストックホルムで開催されたWorld Peace Award 2018(世界平和会議)に高萩市大高寺住職と吉祥院住職が日本代表として招待されました。この会議は世界中から500名が参加し、各国の代表者が世界平和に向けての活動を報告しています。吉祥院住職も世界平和を願い代表スピーチを行いました。また、ストックホルム市役所(ノーベル賞受賞者祝賀会を行っている会場)では各国の平和活動や国際交流を推進した者を称える表彰式もあり、大高寺住職が海外慰霊法要等国際交流の実績を評価され特別表彰を受けました。



↑招待された
大高寺住職と
吉祥院住職



↑ホテルで行われた
活動報告会議の会場



↑活動報告会議
出席者との記念撮影



↑ストックホルム市役所での
世界平和会議の様子
大高寺住職が表彰されました



↑世界平和会議後の記念撮影
(ノーベル賞受賞者のスピーチ会場、
後ろの階段は、あの階段です)

交流の象徴 大高寺奥の院

■茨城県高萩市 大高寺(おおたかじ)

JR常磐線高萩駅からほど近くに位置する、真言宗豊山派 万徳山遍智院大高寺(まんとくさん へんちいん おおたかじ)。吉祥院と同じく、真言宗豊山派第6号支所に属しています。1390年中興、1594年に現在の地(内久田)に移転。ご本尊は千手観世音菩薩、茨城県登録文化財「観経十六観変相図」と高萩市登録文化財「胎蔵界曼荼羅図」を保管する、由緒ある寺院です。



↑ 大高寺本堂



↑ 大高寺奥の院のパゴタ

■タイ国との縁で建立に至った大高寺奥の院釈迦堂

開山当初から1594年まで大高寺があつた山合の地は、現在大高寺奥の院としてパゴタと釈迦堂が建立され、パゴタにはタイ国ワットサケット寺から寄贈された仏舎利(釈迦のお骨)が、釈迦堂には釈迦如来像が安置されています。2006年に寄贈された際は、タイからの16名の僧侶と共に入仏式が行われ、また、2019年にはタイで人間国宝となっている仏師が来日し、釈迦如来像の金箔修復が行われました。その際のいずれの法要に吉祥院住職も参加しています。



↑ 釈迦堂と釈迦如来



↑ タイ国人間国宝仏師と共に



↑ 法要の様子

国境を越えて紡がれた仏教の絆。その象徴が茨城にあります。そんなご縁を感じながらお参りなさってはいかがでしょうか？

日々是好日
悔いのない一日を

ありがたや
ありがたや



発行日：令和5年1月1日
発行元：真言宗豊山派 摩尼山廣嚴寺吉祥院
茨城県石岡市山崎608
☎0299-46-3794

ブログはこちらから↓



©摩尼山廣嚴寺吉祥院 （本誌に掲載の記事・写真等の無断転載及び複写を禁じます）